



幻の豊臣大坂城を求めて

1月24日(土) — 3月22日(日)

主催＝大阪府立弥生文化博物館 後援＝和泉市教育委員会／泉大津市教育委員会／大阪城天守閣／大坂城研究会

■開館時間＝午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) ■休館日＝毎週月曜日 ■入館料＝個人＝一般400円・

高大生300円・小中生・65歳以上は無料 団体＝一般320円・高大生240円(団体は20名以上)

■所在地〒594-0083 和泉市池上町443 TEL:0725-46-2162

■交通＝JR阪和線天王寺駅から525分「信太山」駅下車徒歩7分、南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分


桃山陶器シンポジウム 3月8日(日) 時間＝午後2時～4時30分(1時より受付)
場所＝1階ホール

講演者：名古屋大学 横崎 彰一
「美濃桃山陶の成立——黄瀬戸・志野・織部を中心に」

講演者：滋賀県立大学 森村 健一「秀吉が中国から輸入した陶磁器と志野——秀吉・新食器導入戦略」
講演者：和歌山県立大学 松尾 信裕「秀吉の大坂城と城下町」
コーディネーター＝山本 全開 超 (司会) 佐久間 貴士

弥生カルチャーフォーラム 弥生研究の先覚者たち 時間＝午後2時～4時(1時より受付)
場所＝1階ホール

1月25日(日)「豊臣遺跡の発掘——杉原 荘介」 小林 三郎 2月15日(日)「度量博大の人——水野 清一」 山口 啓彦
2月8日(日)「割舌動向の人——梅原 栄治」 田中 琢 2月22日(日)「東京考古学会のサムライたち——森本 六郎・森森 栄一」
2月11日(日)「割舌動向の人——小林 行雄」 田辺 昭三 高田 洋子・高田 洋子・高田 洋子
※本館学芸員による展示解説……毎週日曜日と祝日(午前11時～特別展示室)

 **大阪府立弥生文化博物館**

幻の豊臣大坂城を求めて

大阪といえば、太閤秀吉。天下統一を果たし、関白・太政大臣にのぼりつめた人物。この秀吉が「なにわのことも夢のまた夢」と世を去ったのが慶長3年(1598)、ちょうど今から400年前のことです。

大阪の町は蓮如上人の寺内町の建設に始まりますが、天正11年(1583)、秀吉は大坂城の築造を契機にこれを近世都市として完成させました。

最近の大坂城の北側の調査では、寺内町の頃の建物、秀吉時代の屋敷跡や三の丸を巡る石垣・堀・堀・道(京街道)などが見つっています。また、国内外の陶磁器をはじめ、金属製品や木製品が出土し、当時の人々の暮らしがわかってきました。今回、秀吉没後400年に因んで、絵画、文献、最新の考古資料などを通じて、秀吉の事蹟や城下町に住む人々の生活ぶりを紹介します。



▲抜いても新たになった大坂城天守閣



▶秀吉自筆辞世和歌
【重要美術品】(大坂城天守閣蔵)

天下人 秀吉

秀吉といえば黄金。天下統一に生かされた氣宇壮大な企画力を、絵画や考古資料、文献史料などにより紹介します。

都市 大坂の誕生

現在残る大坂城の石垣などは、大坂の陣ののちに徳川氏が再建したものです。地下には秀吉の築いた大坂城が眠っています。その秀吉の大坂城の構造と当時の生活の様子を最新の発掘資料で再現します。

茶の心 桃山陶器の美

最近の調査に伴って秀吉・秀頼時代の陶磁器が良好な状態で出土しています。その結果、出土する陶磁器の様相の変化がわかり、それを通じて桃山陶器の世界を紹介します。



▲秀吉の蓄えた金塊
太閤分銅金【複製品】
(大和銀行貨幣資料館蔵)



▲ものさし、台徳などの道具類



▲天下人秀吉の木像
(大坂城天守閣蔵)



▲豊臣大坂城を飾った金箔瓦
(大阪市立博物館蔵)



▲戦国武将の好みに合った器(志野織部焼)



▲上級武士の
つかった漆器

姿を現わした
豊臣大坂城三の丸の石垣

主な展示品

- 豊臣秀吉自筆辞世和歌【重要美術品】
- 豊臣秀吉画像【重要美術品】(2月22日まで)
- 豊臣大坂城三の丸を描いた唯一の「大坂城図屏風」(2月24日から)
- 恩賞用につくられた金銀錢(太閤円歩金など)
- 豊臣大坂城を飾った金箔瓦
- 現存する最古の台徳・臺尺などの豊富な道具類
- 発掘された最古の京丹
- 発掘された桃山陶器の製品多数
- 出品総数約400点を予定